

43. 観光の復興

地震と津波により市内の観光も大きな被害を受けた。復旧作業を進めるほか、石巻市では、平成26年(2014)3月に『石巻市観光復興プラン』を策定し、多彩な輝きがつくる魅力的観光地・石巻を目標像に掲げ、食のまち・いしのまきプロジェクト等9つの重点プロジェクトで計画を進めている。

そのほか、川開き祭りは休むことなく継続し、他の観光施設は、復旧を遂げているところも多い。ただし、被害の大きかった雄勝・北上・牡鹿の観光の復興は、拠点整備事業等の完了まで時間を要する。

1 川開き祭り

大正5年から続く川開き祭りは戦時中などを除いて毎年開催されている。川開き祭りは、川村孫兵衛重吉に対する報恩感謝の祭りとして始まった。

平成23年の東日本大震災によって石巻市は甚大な被害を被ったためその年の開催は危ぶまれたが、祭りの規模は縮小しながらも犠牲になられた方々の慰霊祭として、10,000個の流灯や供養花火の打ち上げが行われた。

中心市街地でのパレードでは、東京ディズニーランドからミッキーとミニーが参加して沿道の市民を喜ばせ、震災ボランティアの方々も参加した。また北上川で行われる孫兵衛船レースは、津波のため船が使用不能となっていたが、山口県、広島県のロータリークラブの協力や支援によって平成26年に復活した。

祭りの期間中は多くの人々が訪れ、石巻市内は1年で最も盛り上がりを見せる。



▲平成23年(2011)の川開きまつり



▲平成23年(2011)の川開きまつり

2 石ノ森萬画館

平成13年(2001)7月23日にオープンした石ノ森萬画館は、漫画家の石ノ森章太郎とゆかりのある中瀬に建設され「萬画的」な発想を活かした街づくりの拠点としてスタートした。

東日本大震災では1階の6.5m地点まで浸水したものの、来館者を素早く避難させたこともあり犠牲になった来館者やスタッフはいなかった。1階にあったものは、津波により窓を突き破って外へ流れてしまう。

震災後はスタッフやボランティアの方々によってがれきの撤去作業やヘドロの除去作業を行うものの、再開できるかどうか分からない状況が続いた。しかし全国各地からの励ましのメッセージや、被災した石ノ森萬画館のガラスを覆うベニヤ板に書き込まれた10,000人ものメッセージによって、復興のシンボルとして再開させようという動きが高まり、震災から1年8か月後の平成24年(2012)11月17日に再オープンすることができた。

その後、いったん休館してリニューアルし、平成25年(2013)3月23日にリニューアルオープンセレモニーを迎えることができた。



▲再オープン直前の石ノ森萬画館



▲リニューアルオープンの様子



▲リニューアルオープンの様子

3 宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館） サン・ファン・パウティスタパーク

慶長使節船サン・ファン・パウティスタを復元し、係留・展示している施設である。

今から約400年前、仙台藩主伊達政宗の命を受け、石巻市月浦(つきのうら)から出帆した支倉常長ら慶長使節の偉業や大航海の様子を紹介している。

津波が直撃した際にはドック棟に倒れこむのではないかとというほど、船体が左右に大きく傾き揺さぶられた。幸い船体が倒れることはなかった。また、津波によってドック棟の2~3cmの厚さがあるガラスは殆ど破られ、展示物は流出し、流れ着いたがれきが散乱した。

また、津波の衝撃をうけたためか震災から1か月後の突風によって見張り台上部のメイントップマストと前方のフォアマストが折れてしまう。

震災から2年8か月後の平成25年(2013)11月3日、たくさんの援助や励ましによってサン・ファン・パウティスタや施設の修復が完了し再オープンを迎えた。

ただし、船体の老朽化のため、現在は乗船ができない状態となっている。



▲サン・ファン・パウティスタパークで再開されたサン・ファン祭り



▲修復中のサン・ファン・パウティスタ(平成25年(2013)8月28日)

4 金華山

震源地に最も近い場所にあった金華山では、ものすごい地鳴り・海鳴りとともに大きな地震が襲った。海の底が見えるほど波が引き、その後津波が押し寄せる。黄金山神社の灯籠や石垣は倒壊し、ライフラインも絶たれてしまう。

復旧作業が続く中、その年の平成23年(2011)7月30日には龍神祭の神事のみではあるが斎行され(龍(蛇)踊りは同年8月1日の川開き祭りのパレードで奉納)、10月には鹿の角切り行事も行われた。

平成29年(2017)には参道工事が完了し、同年4月1日には金華山休けい所がオープンする予定になっているなど、島の復旧・復興は前進している。





5 田代島

旧北上川河口から東南約17kmに位置するこの島は、コバルトブルーの海に囲まれ、風光明媚な自然を満喫できる。

島の人口よりも猫が多く、大漁の守り神として猫を大切にしていることから「猫島」としてメディアでも紹介され、海外からも猫を目当てに観光客が訪れている。

また漫画家のちばてつやと里中満智子らがデザインした「マンガロッジ」や野外活動宿泊施設があり、ありのままの自然を満喫できるほか、新鮮な魚介類を使った料理を楽しむことができる。

東日本大震災では家屋の倒壊や基幹産業である漁業に甚大な被害を被った。離島航路が島への交通手段であるが、平成24年(2012)1月20日に1日1便の限定的な運航から通常ダイヤへと復旧した。



